

研究課題名	Filmarray® 髄膜炎/脳炎パネルを用いた患者マネージメントの医療経済的効果の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹
研究期間	(西暦) 2021年1月 ~ 2022年12月
研究の意義・目的	髄膜や脳炎は重篤な中枢神経合併症をきたす神経救急疾患である。原因微生物は多岐に渡り、患者が髄膜炎であった場合は、抗菌薬投与の遅れは致命的であり、迅速な診断・介入が望ましい。 一方で救急外来や採取後、比較的短時間で結果が分かる検査だけでは髄膜炎の否定は難しく、培養結果の確認が必要となり抗菌薬がその期間継続される。一方、近年ではマルチプレックスPCRであるFilm arrayが本邦でも使用可能となった。この高い検査性能から抗微生物薬投与しながら培養結果を確認する方針からFilim arrayを用いて、迅速に適切な抗微生物学薬の投与継続ないし中止を行うことで、入院期間の短縮や総コストが減少につながったか検証することとした。
研究の方法 (対象期間含む)	方法:後ろ向き観察研究 対象期間・対象:2019年1月から2022年12月で髄膜炎疑いで腰椎穿刺が実施された症例 調査項目: 主要評価項目 入院1患者当たりの総医療費 副次評価項目 抗菌薬投与期間(回数)、入院中の抗菌薬投与コスト、全死亡率、髄液培養結果、入院日数、髄液一般検査結果、入院時の患者背景データ(年齢、性別、既往歴、入院時GCS, mRS, ADL)、来院から髄液検査までの時間、来院から抗菌薬投与までの時間、退院時の患者データ
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①後ろ向き観察研究であり、診療録より情報を収集し統計学的解析を行う ②調査項目:施設名、性別、生年月、入院日、退院日など、髄液検査結果、既存疾患、入院時の状態、投薬時の患者の状態・治療内容・検査値・薬剤の名称・投与量および期間、総コストなど ③救命救急科、神経内科、小児科、総合診療科、臨床検査部④救命救急科 鈴木 秀鷹
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 鈴木 秀鷹 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525

